



第78回 定時株主総会 招 集 ご 通 知

開催日時 2026年6月25日（木曜日）
午前10時

開催場所 愛知県丹羽郡大口町中小口一丁目
1 番地
当社本店会議室

決議事項 第1号議案 剰余金の配当の件
第2号議案 取締役（監査等委員であるものを除く。）6名選任の件

- ご来場いただくことができない場合でも、インターネットまたは書面によって、事前に議決権を行使できますので、ご活用をよろしくお願い申し上げます。
- 本株主総会の様子の一部を、後日インターネットにて動画配信させていただく予定です。配信準備が整いましたら、当社ウェブサイトにてお知らせいたします。

兼房株式会社

証券コード 5984



代表取締役会長

渡邊 将人



代表取締役 社長執行役員 磯谷 岳摩

ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り
厚く御礼申し上げます。

ここに、第78回定時株主総会招集ご通知を
お届けいたします。

兼房は本年、創業130年の節目を迎え、
工業用機械刃物の総合メーカーとして、
あらゆる工業生産の切削技術を追求し、
常に最高の製品を提供してまいりました。

近年、事業環境は不確実性を一層高めて
いますが、当社は変化への迅速な対応と
やりきる力を中期ビジョンに掲げ、生産性向上
による利益創出と、将来を見据えた新たな挑戦
の両立に取り組んでおります。

株主の皆様には、引き続きご支援を賜ります
よう、お願い申し上げます。

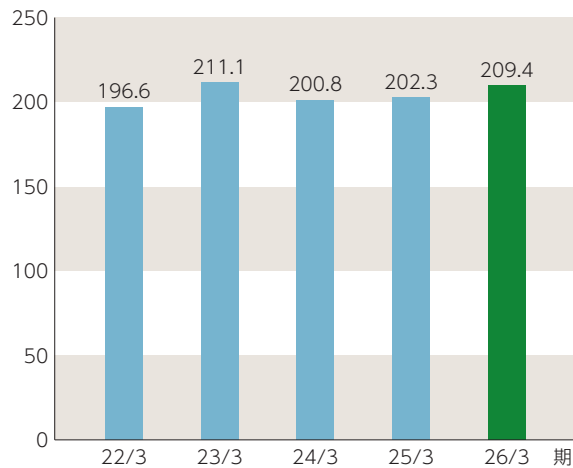
代表取締役会長 **渡邊 将人**

代表取締役
社長執行役員 **磯谷 岳摩**

業績ハイライト

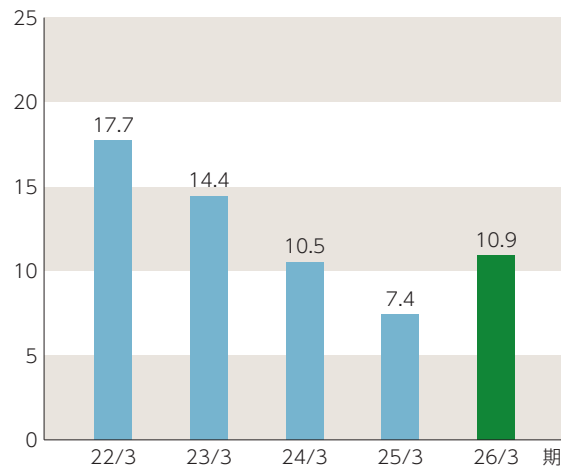
売上高

(億円)



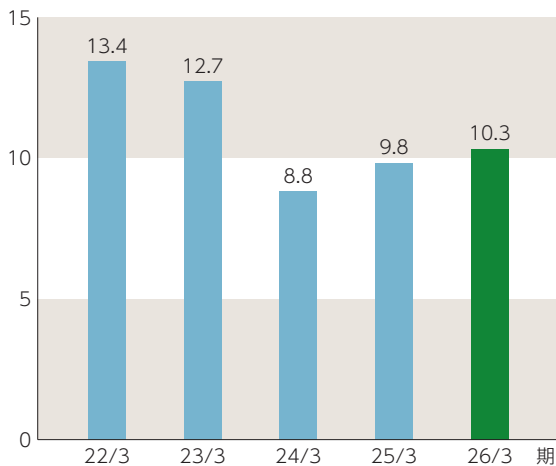
営業利益

(億円)



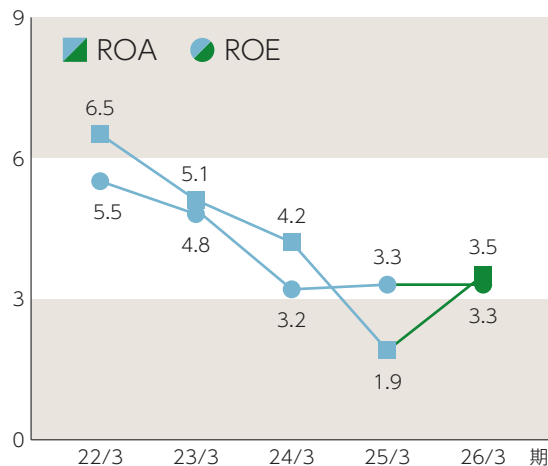
親会社株主に帰属する当期純利益

(億円)



ROA/ROE

(%)



(注) 23年3月期より退職給付債務の計算方法を変更しております。

株 主 各 位

証券コード 5984
2026年6月4日
(電子提供措置の開始日2026年5月29日)
愛知県丹羽郡大口町中小口一丁目1番地

兼房株式会社
代表取締役会長 渡邊 将人

第78回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第78回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

本株主総会の招集に際しては、株主総会参考書類等の内容である情報（電子提供措置事項）について電子提供措置をとっており、インターネット上の各ウェブサイトに掲載しておりますので、以下のいずれかのウェブサイトにアクセスのうえ、ご確認くださいませようお願い申し上げます。

当社ウェブサイト

<https://www.kanefusa.co.jp/ir/library/meeting/>



株主総会資料 掲載ウェブサイト

<https://d.sokai.jp/5984/teiiji/>

東証ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）

<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>

上記の東証ウェブサイトアクセスいただき、「銘柄名（会社名）」に「兼房」または「コード」に当社証券コード「5984」を入力・検索し、「基本情報」「縦覧書類／PR情報」を順に選択して、「縦覧書類」にある「株主総会招集通知/株主総会資料」欄よりご確認ください。

なお、当日ご出席されない場合は、インターネットまたは書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら株主総会参考書類をご検討のうえ、2026年6月24日（水曜日）午後5時までにご行使くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

1 日 時	2026年 6 月25日（木曜日） 午前10時
2 場 所	愛知県丹羽郡大口町中小口一丁目 1 番地 当社本店会議室 (末尾の「株主総会会場ご案内図」をご参照ください。)
3 目的事項	報告事項 1. 第78期（2025年 4 月 1 日から2026年 3 月31日まで） 事業報告の内容、連結計算書類の内容ならびに会計監査人および監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件 2. 第78期（2025年 4 月 1 日から2026年 3 月31日まで） 計算書類の内容報告の件 決議事項 第 1 号議案 剰余金の配当の件 第 2 号議案 取締役（監査等委員であるものを除く。） 6 名選任の件
4 議決権行使について のご案内	後述の【議決権行使についてのご案内】をご参照ください。

以 上

当日ご出席の際は、お手数ながら議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

電子提供措置事項に修正が生じた場合は、前頁に記載のインターネット上の各ウェブサイトにおいて、その旨、修正前および修正後の事項を掲載させていただきます。

ご来場にあたりサポートが必要な方は、事前にご連絡ください。

兼房株式会社 電話：0587-95-2821(代表)

(土日祝日を除く午前8時25分～午後5時)



議決権行使についてのご案内

株主総会における議決権は、株主の皆さまの大切な権利です。
株主総会参考書類をご検討のうえ、議決権を行使していただきますようお願い申し上げます。
議決権を行使する方法は、以下の3つの方法がございます。



株主総会にご出席される場合

議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。

日 時

2026年6月25日（木曜日）
午前10時



インターネットで議決権を行使される場合

次ページの案内に従って、議案の賛否をご入力ください。

行使期限

2026年6月24日（水曜日）
午後5時入力完了分まで



書面（郵送）で議決権を行使される場合

議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示のうえ、切手を貼らずにご投函ください。

行使期限

2026年6月24日（水曜日）
午後5時到着分まで

議決権行使書用紙のご記入方法のご案内

議決権行使書
〇〇〇〇〇〇〇 御中
株主総会日 議決権の数 XX股
XXXX年XX月XX日

議案番号	賛成	反対	棄権
1.			
2.			
3.			
4.			
5.			
6.			
7.			
8.			
9.			
10.			

最寄日現在のご所有株式数 XX株
議決権の数 XX股

ログイン用QRコード
ログインID XXXXX-XXXX-XXXX-XXXX
パスワード XXXXX

〇〇〇〇〇〇

→ こちらに議案の賛否をご記入ください。

第1号議案

- 賛成の場合 >> 「賛」の欄に○印
- 反対する場合 >> 「否」の欄に○印

第2号議案

- 全員賛成の場合 >> 「賛」の欄に○印
- 全員反対する場合 >> 「否」の欄に○印
- 一部の候補者に反対する場合 >> 「賛」の欄に○印をし、反対する候補者の番号をご記入ください。

※議決権行使書用紙はイメージです。

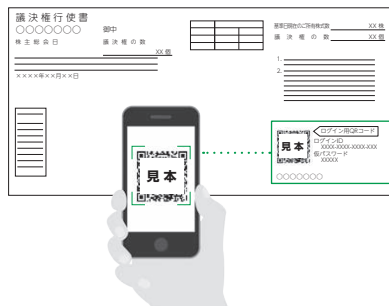
- ・インターネットおよび書面（郵送）の両方で議決権行使をされた場合は、インターネットによる議決権行使を有効な議決権行使としてお取り扱いいたします。また、インターネットにより複数回、議決権行使をされた場合は、最後に行われたものを有効な議決権行使としてお取り扱いいたします。
- ・書面（郵送）により議決権を行使された場合の議決権行使書において、議案に対する賛否の表示がない場合は、賛成の表示があったものとしてお取り扱いいたします。

インターネットによる議決権行使のご案内

QRコードを読み取る方法

議決権行使書用紙に記載のログインID、仮パスワードを入力することなく、議決権行使サイトにログインすることができます。

- 1 議決権行使書用紙に記載のQRコードを読み取ってください。



※「QRコード」は株式会社デンソーウェブの登録商標です。

- 2 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。



ログインID・仮パスワードを入力する方法

議決権行使ウェブサイト <https://evote.tr.mufig.jp/>

- 1 議決権行使ウェブサイトアクセスしてください。
- 2 議決権行使書用紙に記載された「ログインID・仮パスワード」を入力しクリックしてください。



- 3 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。

※操作画面はイメージです。

インターネットによる議決権行使で
パソコンやスマートフォンの操作方法などが
ご不明な場合は、右記にお問い合わせください。

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ヘルプデスク
0120-173-027
(通話料無料/受付時間 9:00~21:00)

株主総会参考書類

議案および参考事項

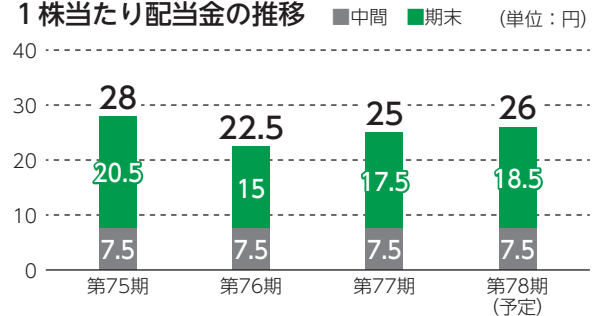
第1号議案 剰余金の配当の件

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題のひとつとして認識しており、安定的かつ継続的な配当を基本方針として、年間配当金15円を下限とし、連結配当性向35%をめどに業績に応じた配当を実施することとしております。この基本方針のもと、当期の期末配当につきましては、以下のとおりといたしたいと存じます。

- ① 配当財産の種類
金銭といたします。
- ② 株主に対する配当財産の割当てに関する事項およびその総額
当社普通株式1株につき金18円50銭
総額257,149,223円
なお、中間配当金として7円50銭をお支払いしておりますので、当期の年間配当金は1株につき金26円となります。
- ③ 剰余金の配当が効力を生じる日
2026年6月26日

<ご参考>

1 株当たり配当金の推移



第2号議案 取締役（監査等委員であるものを除く。）6名選任の件

取締役（監査等委員であるものを除く。以下、本議案において同じ。）全員（6名）は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、取締役6名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案について、監査等委員会において検討がなされ、役員規程に定める選任基準および当事業年度における業務遂行状況等を鑑み、各候補者は当社の取締役として適任であるとの意見表明を受けております。

取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者番号	ふりがな 氏名（生年月日）	略歴、当社における地位、担当（重要な兼職の状況）	所有する当社の株式の数
1	 わたなべ まさと 渡邊 将人 (1955年5月1日生) 取締役会出席状況 13/13回 再任	1985年12月 当社入社 1990年6月 当社取締役 1991年4月 当社取締役予算管理室長 1993年4月 当社取締役東京支社（現関東支社）長 1997年6月 当社取締役営業部長 1999年6月 当社専務取締役 2000年6月 当社代表取締役社長 2017年6月 当社代表取締役 社長執行役員 2023年6月 当社代表取締役会長（現任） 【取締役候補者とした理由】 渡邊将人氏は、長年にわたり当社の経営に携わっており、経営全般における豊富な経験と幅広い見識を有していることから、取締役としての職務を適切に遂行することができるものと判断し、引き続き取締役として選任をお願いするものであります。	400,229株
2	 いそがや たけま 磯谷 岳摩 (1962年3月16日生) 取締役会出席状況 13/13回 再任	1984年4月 当社入社 2011年6月 当社丸鋸事業部長 2015年4月 当社平刃事業部長 2016年6月 当社取締役PT.カネフサインドネシア社長 2017年6月 当社上席執行役員PT.カネフサインドネシア社長 2019年1月 当社上席執行役員丸鋸事業部長 2020年4月 当社上席執行役員本社工場長兼丸鋸事業部長 2020年6月 当社取締役 常務執行役員本社工場長兼研究開発部担当 2023年4月 当社取締役 常務執行役員事業部門担当兼研究開発部担当 2023年6月 当社代表取締役 社長執行役員（現任） （重要な兼職の状況） 昆山兼房高科技刀具有限公司董事長 大口サービス株式会社取締役社長 【取締役候補者とした理由】 磯谷岳摩氏は、当社において研究開発部門および製造部門を経験し、海外製造拠点において工場運営にも携わりました。研究開発および製造技術における豊富な経験と幅広い見識を有していることから、取締役としての職務を適切に遂行することができるものと判断し、引き続き取締役として選任をお願いするものであります。	5,990株

候補者番号	ふりがな 氏名（生年月日）	略歴、当社における地位、担当（重要な兼職の状況）	所有する当社の株式の数
3	 わたなべ ひさのぶ 渡邊 久修 (1990年4月11日生) 取締役会出席状況 10/10回 再任	2016年 9 月 当社入社 2022年 4 月 当社国内営業部中部支社営業二課課長待遇 2023年 4 月 当社管理本部副本部長 2023年 6 月 当社執行役員管理本部副本部長 2024年 4 月 当社執行役員営業本部副本部長兼新市場開発室長 2025年 6 月 当社取締役 常務執行役員東南アジア拠点担当兼新市場開発室長 2026年 4 月 当社取締役 常務執行役員東南アジア拠点担当（現任）	642,930株
		【取締役候補者とした理由】 渡邊久修氏は、当社において営業・事業部門および管理部門を幅広く経験し、中長期の経営戦略策定に取り組むなど、経営全般の知識やリーダーシップを有していることから、取締役としての職務を適切に遂行することができるものと判断し、引き続き取締役として選任をお願いするものであります。	
4	 さつき けんじ 佐築 賢治 (1966年9月8日生) 取締役会出席状況 13/13回 再任	1990年 4 月 株式会社協和銀行（現株式会社りそな銀行）入行 2013年 4 月 株式会社りそな銀行鶴間支店長 2016年 5 月 当社入社 2016年 7 月 当社経営管理部長 2017年 6 月 当社執行役員経営管理部長 2019年 6 月 当社執行役員総務部長 2020年 6 月 当社取締役 常務執行役員管理部門担当兼総務部長 2023年 4 月 当社取締役 常務執行役員管理本部長（管理部門担当） 2024年 4 月 当社取締役 常務執行役員管理本部長兼人財開発室長 2026年 4 月 当社取締役 常務執行役員管理本部長（現任）	10,506株
		【取締役候補者とした理由】 佐築賢治氏は、金融機関において要職を経験し、経理財務における豊富な知識と企業経営に関する幅広い見識を有していることから、取締役としての職務を適切に遂行することができるものと判断し、引き続き取締役として選任をお願いするものであります。	

候補者番号	ふりがな 氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位、担当（重要な兼職の状況）	所有する当社の株式の数
5	 いまいずみ こういち 今泉 宏一 (1965年9月12日生) 取締役会出席状況 13/13回 再任	1988年 4 月 当社入社 2012年10月 当社カネフサヨーロッパB.V.社長 2019年10月 当社PT.カネフサインドネシア社長 2021年 6 月 当社執行役員PT.カネフサインドネシア社長 2022年 4 月 当社執行役員海外部付 2022年 6 月 当社取締役 常務執行役員営業部門担当 2024年 4 月 当社取締役 常務執行役員営業本部長（現任）	10,883株
		【取締役候補者とした理由】 今泉宏一氏は、当社において営業部門を経験し、海外製造拠点において工場運営にも携わりました。営業部門および海外事業における豊富な経験と幅広い見識を有していることから、取締役としての職務を適切に遂行することができるものと判断し、引き続き取締役として選任をお願いするものであります。	
6	 なかじま やすたか 中島 康貴 (1972年4月27日生) 取締役会出席状況 13/13回 再任	1997年 4 月 当社入社 2015年 4 月 当社丸鋸事業部長 2017年 6 月 当社執行役員丸鋸事業部長 2019年10月 当社執行役員カネフサベトナムマニュファクチャリングCO., LTD.取締役社長 2021年 4 月 当社執行役員国内営業部副部長 2022年 4 月 当社執行役員国内営業部中部支社長 2023年 4 月 当社執行役員本社工場長 2023年 6 月 当社取締役 常務執行役員事業部門担当兼研究開発部担当（現任）	3,560株
		【取締役候補者とした理由】 中島康貴氏は、当社において製造部門および営業部門を経験し、海外製造拠点において工場運営にも携わりました。製造部門および営業部門における豊富な経験と幅広い見識を有していることから、取締役としての職務を適切に遂行することができるものと判断し、引き続き取締役として選任をお願いするものであります。	

- (注) 1. 各候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 当社は、保険会社との間で会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、当該保険契約の内容の概要は、事業報告「4. 会社役員に関する事項 (3) 役員等賠償責任保険契約の内容の概要等」に記載のとおりであります。各取締役候補者の選任が承認されますと、当該保険契約の被保険者となります。
- また、当該保険契約は次回更新時においても同内容での更新を予定しております。
3. 各候補者の所有する当社の株式の数は、2026年3月31日現在の状況を記載しております。また、兼房役員持株会または兼房従業員持株会における本人持分を含めております。

以上

<ご参考>

株主総会後の取締役のスキル・マトリックス

氏名	役職 (予定)	企業 経営	国際 経験	営業 マーケ ティング	技術 研究開発	法務 リスクマネ ジメント	財務 会計	人事 労務	D X I T	製造 調達	E S G
渡邊 将人	代表取締役 会長	○	○	○			○	○			○
磯谷 岳摩	代表取締役 社長執行役員	○	○		○	○	○	○	○	○	○
渡邊 久修	取締役 専務執行役員	○	○	○			○		○		○
佐築 賢治	取締役 常務執行役員	○				○	○	○	○		○
今泉 宏一	取締役 常務執行役員	○	○	○							○
中島 康貴	取締役 常務執行役員	○	○		○				○	○	○
山内 敏男	取締役 監査等委員	○	○			○	○	○			○
山崎 裕司	社外取締役 監査等委員		○				○				○
岡部 真記	社外取締役 監査等委員		○			○		○			○

※各候補者に特に期待する知識・経験・能力であり、候補者の有するすべての知見を表すものではありません。

事業報告

(2025年4月1日から
2026年3月31日まで)

1. 企業集団の現況に関する事項

(1) 事業の経過およびその成果

当連結会計年度における世界経済は、各国における金融緩和的な政策運営やAI関連投資の拡大を背景に、総じて底堅く推移しました。一方で、ウクライナ・中東情勢などの地政学的リスクの長期化、中国経済の低迷、米国の通商政策を巡る不透明感などにより、景気の先行きに対する警戒感は依然として強く、地域ごとに景況感の差がみられる状況となりました。わが国経済においては、人手不足を背景とした雇用改善と賃上げ、さらにはDX投資拡大など、内需中心に改善傾向にありましたが、円安による輸入物価上昇などから、景気回復は力強さを欠いた状況となっております。

このような状況の下、当社グループは生産性の維持・向上、国内の住宅関連市場における占有率拡大と非住宅関連市場の開拓や海外の売上拡大などを目指し、戦略的な製品開発、生産、営業活動を展開しました。国内における売上は、住宅関連刃物は減少したものの非住宅関連刃物の販売拡大により前年同期から増加しました。一方、海外での売上は、欧州向けを中心に増加し、当連結会計年度の売上高は、209億4千7百万円（前期比3.5%増）となりました。

利益面につきましては、原材料価格等のコスト上昇要因があったものの、前年の中国子会社における事業構造改革の効果が寄与したことなどから、営業利益は、10億9千万円（前期比45.9%増）となりました。営業外収益として為替差益2億円を計上したことなどから、経常利益は、13億4千4百万円（前期比90.1%増）となりました。特別利益として、事業譲渡益6千5百万円を計上したものの、前期には固定資産売却益9億5千7百万円を計上したことから、税金等調整前当期純利益は、14億6千5百万円（前期比11.3%減）となりました。以上の結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、10億3千1百万円（前期比4.8%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 日本

海外向けでは自動車関連刃物および鉄鋼関連刃物が減少したものの、国内向けでは非住宅関連刃物が増加したことから、売上高は159億1千3百万円（前期比0.6%増）、原材料・副資材のコストアップにより営業利益は3億1千万円（前期比35.7%減）となりました。

② インドネシア

木工関連刃物および自動車関連刃物などが減少し、売上高は41億7千7百万円（前期比2.1%減）、減価償却費の減少などにより原価率が良化したことから、営業利益は3億9千8百万円（前期比21.1%増）となりました。

③ 米国

鋼管関連刃物および自動車関連刃物が増加したことから、売上高は24億6千2百万円（前期比2.1%増）となりましたが、グループ間の仕入価格上昇により、営業利益は8千2百万円（前期比48.0%減）となりました。

④ 欧州

木工関連刃物が増加したことから、売上高は22億8千9百万円（前期比17.3%増）、営業利益は4千1百万円（前期比59.0%増）となりました。

⑤ 中国

木工関連刃物および自動車関連刃物が増加したことから、売上高は18億4千9百万円（前期比6.2%増）、前期の事業構造改革が功を奏し、営業利益は6百万円（前期は3億8百万円の営業損失）となりました。

⑥ ブラジル

木工関連刃物および製紙関連刃物が増加したことから、売上高は7億8千5百万円（前期比18.6%増）となりましたが、仕入に伴う輸入費用の増加やドル取引におけるレアル安の影響などにより、営業損益は2千2百万円の損失（前期は6千万円の営業利益）となりました。

⑦ ベトナム

紙工関連刃物や自動車関連刃物が増加したことから、売上高は15億6百万円（前期比13.8%増）となりましたが、減価償却費の増加などにより原価率が悪化したことから、営業利益は9千5百万円（前期比14.4%減）となりました。

なお、セグメント別の売上高は、セグメント間の内部売上高を含めて記載しております。

製品区分別売上高においては、平刃類では包装関連刃物が増加したことなどにより、売上高は70億4千6百万円（前期比5.5%増）となりました。精密刃具類では木工関連刃物が微減となり、売上高は37億6千8百万円（前期比0.0%減）となり、丸鋸類では鋼管関連刃物や自動車関連刃物が増加し、売上高は97億3千8百万円（前期比2.6%増）となりました。また、商品の売上高は3億9千3百万円（前期比34.8%増）となりました。

(2) 設備投資および資金調達の状況

当連結会計年度につきましては、建物及び構築物で8千6百万円、機械装置で5億8千8百万円、総額で8億4千7百万円の設備投資を実施いたしました。主なものとしましては、機械装置では研削盤で6千1百万円、熱処理装置で5千5百万円、切削加工装置で1千4百万円、ベトナム生産子会社の増産設備一式で2億3千7百万円の設備投資を実施いたしました。

(3) 対処すべき課題

次期経済環境につきましては、米国の関税政策によるサプライチェーンの混乱や中国経済の低迷に加え、ロシア・ウクライナ戦争長期化や中東での紛争など地政学的リスクを背景に、引き続き先行き不透明な状況が続くものと予想されます。わが国経済においては、積極的な財政政策による企業業績改善と賃上げが期待される一方で、レアメタルと原油由来の原材料やエネルギー価格の高騰が企業活動に影響を及ぼす可能性があります。

このような状況のもと、当社は経営環境のさらなる変化に対応するべく、10年後の当社のありたい姿（長期ビジョン）を定めた上で、2026年度よりスタートする新たな3ヶ年の中期経営計画の策定を進めており、中期ビジョンとして「変化への対応スピードとやりきる力で持続的成長を実現」を掲げ、企業体質の改善・改革と、新たなビジネスモデルの創造、ビジネスプロセスの変革を目指してまいります。

中期経営計画の基本方針および重点テーマは、次のとおりであります。

中期経営計画（2026年度～2028年度）

（基本方針）

【第一の柱】	【第二の柱】	【第三の柱】
市場価値を高める 事業展開と選択集中	競争力を支える ものづくり革新とDX実装	人財力を引き出す 成長支援型組織づくり
【土台】利益創出を軸とした経営管理と基盤強化 ■ PDCA/OODAサイクルの短縮による経営スピードの向上 ■ 役割と責任の明確化によるタスク成功率の向上 ■ 受注変化に効率よく迅速に対応かつ余裕時に徹底的な教育が実施できる体制づくり ■ 市場変動や需給変化への代替策(Plan B)を常に準備		

（重点分野）

戦略製品	■グローバル戦略製品： 市場の大きい自動車・住宅関連の金属切断・木工用丸鋸製品 競合の少ない合板・紙工関連の平刃製品 ■新市場攻略製品：EV・半導体関連の高精度刃具、新素材切断刃
重点市場	北中南米、インド
重点技術	希少素材の微小化、コーティング、接合、レーザクラッド、熱処理

(重点投資・活動)

投資対象 重点活動	システム、モノづくり、人的資本、作業環境、カーボンニュートラル 変化対応力・調達能力アップ
主要投資 および活動	■ 高人依存からの脱却・付加価値創出型の生産体制へ（自動化・省人化） ■ 製造・業務に「変化対応部門（プール）」を設置（業務の平準化） ■ 採用から再雇用（シニア層）まで幅広く人財へ投資（人事制度見直し） ■ 調達先の多様化、レアメタル由来の重要原材料の安定確保

(4) 直前三事業年度の財産および損益の状況

区 分	第75期 2022年度	第76期 2023年度	第77期 2024年度	第78期 (当連結会計年度) 2025年度
売 上 高 (千円)	21,119,336	20,080,975	20,231,590	20,947,572
経 常 利 益 (千円)	1,663,152	1,444,692	707,380	1,344,417
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益 (千円)	1,276,644	886,436	984,449	1,031,960
1 株 当 たり 当 期 純 利 益 (円)	91.84	63.77	70.82	74.24
総 資 産 (千円)	33,865,473	34,769,938	38,469,490	38,403,443
純 資 産 (千円)	27,399,116	28,431,929	30,556,144	31,339,243
1 株 当 たり 純 資 産 額 (円)	1,971.13	2,045.46	2,198.28	2,254.63

(注) 1. 2022年度

国内における売上は、住宅関連刃物、非住宅関連刃物ともに増加し、海外での売上もアジアおよび米国向けを中心に増加したことから売上高は前期比7.4%増の211億1千9百万円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は前期比5.2%減の12億7千6百万円となりました。

2. 2023年度

国内における売上は、住宅関連刃物、非住宅関連刃物ともに前期から減少し、海外での売上は、米国向けを中心に増加しましたが、アジアおよび欧州向けを中心に減少したことから、売上高は前期比4.9%減の200億8千万円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は前期比30.6%減の8億8千6百万円となりました。

3. 2024年度

国内における売上は、住宅関連刃物、非住宅関連刃物ともに前期から減少し、海外での売上は、欧米を中心に減少しましたが、アジア向けが増加したことから、売上高は前期比0.8%増の202億3千1百万円となりました。利益面では、固定資産売却益を計上したことなどから、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比11.1%増の9億8千4百万円となりました。

4. 2025年度

当連結会計年度につきましては、前記「(1)事業の経過およびその成果」に記載のとおりであります。

(5) 重要な親会社および子会社の状況

① 親会社の状況

該当事項はありません。

② 重要な子会社の状況

名 称	資 本 金	議決権比率	主 要 な 事 業 内 容
P T . カ ネ フ サ イ ン ド ネ シ ア	10,400千米ドル	100.0% (0.7%)	工業用機械刃物の製造・販売
カ ネ フ サ U S A , I N C .	1,400千米ドル	100.0%	工業用機械刃物の販売
カ ネ フ サ ヨ ー ロ ッ パ B . V .	1,000千ユーロ	100.0%	工業用機械刃物の販売
昆 山 兼 房 高 科 技 刀 具 有 限 公 司	10,400千米ドル	100.0%	工業用機械刃物の製造・販売
カネフサベトナム マニファクチャリングCO., LTD.	20,000千米ドル	100.0%	工業用機械刃物の製造・販売

(注) 議決権比率欄の () は、間接所有割合であり内数で記載しております。

(6) 主要な事業内容 (2026年3月31日現在)

工業用機械刃物・工具・工作機械・機械部品等の製造販売であり、主要な製品は次のとおりであります。

区 分	主 要 製 品
平 刃 類	木工用平刃物、合板用刃物、製本紙工用刃物、製紙用刃物
精 密 刃 具 類	ダイヤモンド製品、替刃式刃物、鉋胴、銼類
丸 鋸 類	チップソー、金属切断用丸鋸

(7) 主要な営業所および工場（2026年3月31日現在）

会 社 名	主 要 拠 点 お よ び 所 在 地
兼 房 株 式 会 社	本社・工場（愛知県）、中部支社（名古屋市）、 関東支社（さいたま市）、関西支社（大阪市）、 札幌営業所、福岡営業所、高松営業所、広島営業所、仙台営業所
P T . カ ネ フ サ イ ン ド ネ シ ア	本社・工場（インドネシア）
カ ネ フ サ U S A , I N C .	本社（アメリカ）
カ ネ フ サ ヨ ー ロ ッ パ B . V .	本社（オランダ）
昆 山 兼 房 高 科 技 刀 具 有 限 公 司	本社・工場（中国）
カネフサベトナム マニュファクチャリングCO., LTD.	本社・工場（ベトナム）
カ ネ フ サ ド ブ ラ ジ ル L T D A .	本社（ブラジル）

(8) 使用人の状況（2026年3月31日現在）

① 企業集団の使用人の状況

使 用 人 数	前 連 結 会 計 年 度 末 比 増 減
1,135 (234) 名	32名減 (29名増)

(注) 使用人数は就業人員であり、臨時雇用者（パートタイマー、エルダースタッフおよび嘱託）は（ ）内に年間の平均人員を外数で記載しております。

② 当社の使用人の状況

使 用 人 数	前 事 業 年 度 末 比 増 減	平 均 年 齢	平 均 勤 続 年 数
581 (101) 名	27名減 (4名増)	41歳	17.8年

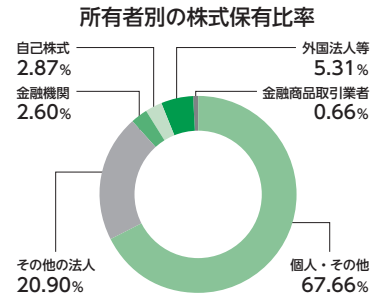
(注) 使用人数は就業人員であり、臨時雇用者（パートタイマー、エルダースタッフおよび嘱託）は（ ）内に年間の平均人員を外数で記載しております。

(9) 主要な借入先の状況 (2026年3月31日現在)

借入先	借入額
株式会社りそな銀行	2,426,240千円
株式会社国際協力銀行	639,520千円

2. 会社の株式に関する事項 (2026年3月31日現在)

- (1) 発行可能株式総数 39,000,000株
- (2) 発行済株式の総数 14,310,000株 (自己株式 410,042株を含む)
- (3) 株主数 3,046名
- (4) 大株主 (上位10名)



株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
大 口 興 産 株 式 会 社	2,299	16.55
渡 邊 裕 子	1,366	9.83
太 田 万 佐 子	1,327	9.55
兼 房 従 業 員 持 株 会	752	5.41
渡 邊 久 修	642	4.62
信 太 万 希 子	593	4.27
太 田 正 志	404	2.91
渡 邊 將 人	400	2.88
BNYM RE BNYMLB RE GPP CLIENT MONEY AND ASSETS AC	239	1.72
渡 邊 美 奈 子	233	1.68

- (注) 1. 当社は、自己株式を410千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

3. 会社の新株予約権等に関する事項

該当する事項はありません。

4. 会社役員に関する事項

(1) 取締役の氏名等（2026年3月31日現在）

会社における地位	氏名	担当および重要な兼職の状況
代表取締役会長	渡邊 将人	
代表取締役社長執行役員	磯谷 岳摩	昆山兼房高科技刀具有限公司董事長 大口サービス株式会社取締役社長
取締役常務執行役員	佐築 賢治	管理本部長
取締役常務執行役員	今泉 宏一	営業本部長
取締役常務執行役員	中島 康貴	事業部門担当兼研究開発部担当
取締役常務執行役員	渡邊 久修	東南アジア拠点担当兼新市場開発室長
取締役（常勤監査等委員）	山内 敏男	
社外取締役（監査等委員）	山崎 裕司	山崎裕司公認会計士事務所 所長 株式会社中央製作所 社外取締役
社外取締役（監査等委員）	岡部 真記	オリンピック法律事務所 パートナー

- (注) 1. 重要な会議への出席や内部監査室との綿密な連携を図ることにより、監査等委員会による監査の実効性を高めるため、山内敏男氏を常勤の監査等委員に選定しております。
2. 社外取締役（監査等委員）山崎裕司氏は、公認会計士、税理士の資格を有しており、財務・会計および税務に関する専門的知識を有するものであります。
3. 社外取締役の重要な兼職先と当社との間には、いずれも特別な関係はありません。
4. 社外取締役（監査等委員）山崎裕司氏および岡部真記氏につきましては、株式会社東京証券取引所および株式会社名古屋証券取引所に対し、独立役員として届け出ております。

(2) 責任限定契約の内容の概要

当社と各監査等委員は会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令の定める最低責任限度額、または当該契約で定める額とのいずれか高い額としております。

(3) 役員等賠償責任保険契約の内容の概要等

当社は会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しております。

① 被保険者の範囲

当社のすべての取締役、執行役員および管理職従業員

(注) 1. 退任または退職した者を含みます。

2. 管理職従業員とは、取締役会決議により会社法上の「重要な使用人」として選任された執行役員以外の者であります。

② 保険契約の内容の概要

1) 被保険者による保険料の負担割合

保険料は全額当社が負担しており、被保険者による実質的な保険料の負担はありません。

2) 填補の対象とされる保険事項の概要

特約部分も合わせ、被保険者が会社の役員等の地位に基づき行った行為に起因した損害賠償請求がなされた場合の、被保険者が被る法律上の損害賠償金や争訟費用を填補することとしております。

3) 役員等の職務の執行の適正性が損なわれないようにするための措置

役員等の職務の適正性が損なわれないための措置として、犯罪行為や意図的に違法行為を行った役員自身の損害等は補償対象外としております。

(4) 取締役の報酬等

① 当事業年度に係る報酬等の総額

区 分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)			対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	業績連動報酬等	役員退職慰労金	
取 締 役 (監 査 等 委 員 を 除 く)	191	169	22	－	6
取締役(監査等委員) (うち社外取締役)	25 (10)	24 (10)	1 (－)	－ (－)	4 (3)
合 計 (う ち 社 外 役 員)	217 (10)	193 (10)	23 (－)	－ (－)	10 (3)

(注) 上表には2025年6月26日開催の第77回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役(監査等委員) 1名を含んでおります。

② 業績連動報酬等に関する事項

株主から期待される利益向上へのインセンティブが働く仕組みとするため、各事業年度の連結業績の達成度を示す指標として、親会社株主に帰属する当期純利益に応じ、業績への各取締役の貢献度などの諸般の事情を勘案

し算出した額を、月例にて支給しております。

当事業年度を含む親会社株主に帰属する当期純利益の実績推移は1. (4) 直前三事業年度の財産および損益の状況に記載のとおりであります。

- ③ 取締役（監査等委員であるものを除く。以下同じ。）および監査等委員である取締役の報酬等についての株主総会の決議に関する事項

取締役の金銭報酬の額は、2017年6月28日開催の第69回定時株主総会において年額310百万円以内と決議しております。当該定時株主総会終結時点の取締役の員数は6名であります。

監査等委員である取締役の金銭報酬の額は、2015年6月25日開催の第67回定時株主総会において年額50百万円以内と決議しております。当該定時株主総会終結時点の監査等委員である取締役の員数は3名であります。

- ④ 取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針

当社は、2023年3月27日開催の取締役会において、取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針を決議しております。

また、取締役会は、当事業年度に係る取締役の個人別の報酬等について、報酬等の内容の決定方法および決定された報酬等の内容が取締役会で決議された決定方針と整合していることを確認しており、当該決定方針に沿うものであると判断しております。

取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針の内容は次のとおりです。

- 1) 基本方針

取締役の報酬は金銭報酬とし、基本報酬および業績連動報酬で構成しております。個々の取締役の報酬の決定に際しては、役位や在任年数等を踏まえた適正な水準とすることを基本方針としております。

- 2) 基本報酬の個人別の報酬等の額の決定に関する方針

取締役の基本報酬は月例の固定報酬とし、各取締役の役位や在任年数による報酬テーブルの額を上限とし、経営環境などを総合的に勘案して決定しております。

- 3) 業績連動報酬等の内容および額または数の算定方法の決定に関する方針

上記「②業績連動報酬等に関する事項」に記載のとおりであります。

- 4) 基本報酬の額、業績連動報酬等の額の取締役の個人別の報酬等の額に対する割合の決定に関する方針

取締役の種類別の報酬割合については、支給の都度、基本報酬および業績連動報酬を各々個別に算定し、支給割合を決定しております。

- 5) 取締役の個人別の報酬等の内容についての決定に関する事項

個人別の報酬額については、株主総会で決議された総額の範囲において、上記の方針に基づき、指名・報酬委員会の答申内容を踏まえつつ、取締役会で決定しております。

(5) 社外役員に関する事項

・当事業年度における主な活動状況

	出席状況、発言状況および社外取締役期待される役割に関して行った職務の概要
社外取締役（監査等委員） 山崎裕司	取締役会13回開催中すべて、監査等委員会13回開催中すべてに出席いたしました。公認会計士・税理士の資格を有し、財務および会計に精通しており、高い識見と幅広い経験があり、独立性および客観性を確保した助言・監督等を果たしていただくことを期待しておりますところ、当社取締役会において公認会計士・税理士としての専門的見地や独立した立場等から財務会計等について、当社の社外取締役として業務執行に対する助言・監督等適切な役割を果たしていただいております。また、当社の取締役の指名および報酬等に関する手続きの公正性、透明性、客観性を強化し、コーポレート・ガバナンス体制のより一層の充実を図ることを目的として設置している指名・報酬委員会の委員長を務めております。
社外取締役（監査等委員） 岡部真記	2025年6月26日就任後に開催した取締役会10回開催中すべて、監査等委員会10回開催中すべてに出席いたしました。弁護士・公認不正検査士の資格を有し、企業法務に精通しており、高い識見と幅広い経験があり、独立性および客観性を確保した助言・監督等を果たしていただくことを期待しておりますところ、当社取締役会において弁護士としての専門的見地や独立した立場等からコーポレート・ガバナンス等について、当社の社外取締役として業務執行に対する助言・監督等適切な役割を果たしていただいております。また、当社の取締役の指名および報酬等に関する手続きの公正性、透明性、客観性を強化し、コーポレート・ガバナンス体制のより一層の充実を図ることを目的として設置している指名・報酬委員会の委員を務めております。

5. 会計監査人の状況

(1) 名称

有限責任監査法人トーマツ

(2) 報酬等の額

- | | |
|----------------------------------|----------|
| ① 当事業年度に係る会計監査人としての報酬等の額 | 34,000千円 |
| ② 当社および子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 34,000千円 |

(注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人としての報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

2. 監査等委員会は、会計監査人と監査契約を締結するに際し、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務執行状況および報酬見積りの算出根拠などが適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。

(3) 重要な子会社の監査

当社の重要な子会社であるPT.カネフサインドネシア、カネフサUSA, INC.、カネフサヨーロッパB.V.、昆山兼房高科技刀具有限公司、カネフサベトナム マニュファクチャリングCO., LTD.は、当社の会計監査人以外の監査法人の監査を受けております。

(4) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査等委員会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。

監査等委員会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査等委員全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

6. 会社の体制および方針

(1) 業務の適正を確保するための体制

当社の業務の適正を確保するための体制の整備について、取締役会で決議した内容の概要は次のとおりであります。

① 取締役・使用人の職務執行が法令・定款に適合することを確保するための体制

当社およびグループ会社の取締役および社員が法令・定款および社会規範を順守した行動をとるための行動規範として、「兼房グループ行動規範」を定め、代表取締役が繰返しその精神を取締役および社員に伝えることにより、法令順守をあらゆる企業活動の前提とすることを徹底する。

管理本部はコンプライアンスの取り組みを横断的に統括することとし、各部門責任者にその部門の社員に対するコンプライアンス教育・啓発を行わせる。

内部監査室は、コンプライアンスの状況を監査し、これらの活動は定期的に取り締役に報告されるものとする。

② 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する事項

文書管理規程に従い、取締役の職務執行に係る情報を以下の文書（電磁的媒体を含む。以下同じ。）に記録し、保存する。取締役は常時、これらの文書等を閲覧できるものとする。

- ・株主総会議事録と関連資料
- ・取締役会議事録と関連資料
- ・取締役が主催するその他の重要な会議の議事録の経過の記録または指示事項と関連資料
- ・取締役を決定者とする決定書類および附属書類
- ・その他取締役の職務の執行に関する重要な文書

③ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社およびグループ会社におけるリスク管理については、リスク管理規程を整備し実施するものとする。

コンプライアンス、環境、災害、品質、情報セキュリティおよび輸出管理等に係るリスクについては、職務分掌規程による担当部署にて、規程・基準類の制定、研修の実施、要領の作成・配布等を行うものとする。組織横断的リスク状況の監視および全社対応は管理本部が行うものとし、統括責任者を管理部門担当取締役とする。新たに生じたリスクについては取締役会において速やかに対応責任者となる取締役を定める。なお、統括責任者は、リスク管理に関する事項を定期的に取り締役に報告する。

④ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

経営管理システムを用いて当社およびグループ会社の取締役、社員が共有する全社的な目標を定め、この浸透を図ると共に、この目的に基づく3事業年度を期間とする中期経営計画を策定する。各部門担当取締役と執行役員はその目標達成のために各部門の具体的な目標と効率的な達成の方法を定め、ITを活用したシステムによりその結果のレビューを実施し、効率化を阻害する要因を排除・低減するなどの改善を促すことにより、目標達成の

確度を高め、全社的な業務の効率化を実現するシステムを構築する。なお、取締役会はその業務執行状況を監督する。

⑤ 当社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社およびグループ会社における内部統制の構築を目指し、当社は管理本部、グループ会社は関係会社管理規程に定める主管部門を担当部署とし、当社およびグループ会社間での職務の執行に係る報告、内部統制に関する協議、情報の共有化、指示・要請の伝達等が効率的に行われるシステムを含む体制を構築する。当社取締役、グループ会社の社長は、各部門の業務執行の適正を確保する内部統制の確立と運用の権限と責任を有する。

当社の内部監査室は、当社およびグループ会社の内部監査を実施し、その結果を担当部署および被監査部門責任者に報告し、担当部署は必要に応じて内部統制の改善策の指導、実施の支援・助言を行う。また監査等委員は内部監査室および会計監査人との緊密な連携等の確な体制を構築する。

⑥ 監査等委員会の職務を補助すべき取締役および使用人に関する体制、その取締役および使用人の他の取締役からの独立性ならびにその取締役および使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

監査等委員会の職務を補助する組織として内部監査室を設置する。なお、他の取締役からの独立性および指示の実効性を確保するため、監査等委員会の職務を補助する社員の人事考課および異動については、事前に監査等委員会の同意を得るものとする。

⑦ 監査等委員会に報告をするための体制および報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

代表取締役およびその他の取締役は、取締役会等の重要な会議において随時その担当する業務の執行状況の報告を行う。また当社およびグループ会社の取締役、監査役および社員は、監査等委員会に対して、法定の事項に加え、当社およびグループ会社の業績に重大な影響を及ぼす事項または恐れのある事項ならびに内部監査の実施状況等の内容を速やかに報告するものとする。また、管理本部はグループ会社の取締役、監査役および社員からの報告を受けた際にはその内容を速やかに監査等委員会に報告するものとする。なお、公益通報者保護規程に基づく報告を行った者、および本条に基づく報告を行った者は不利な取扱いを受けないこととする。

⑧ 監査等委員の職務の執行について生ずる費用の前払または償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項

監査等委員が、その職務の執行について生ずる費用の前払または償還等の請求をしたときは、当該監査等委員の職務の執行に必要なでないと認められた場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理する。

⑨ その他監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制

代表取締役は監査等委員会、会計監査人とそれぞれ定期的な意見交換会を開催する。また監査等委員および監査等委員会は、会計監査人との定期的な意見交換会を実施する。

(2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況

当事業年度における業務の適正を確保するための体制の主な運用状況は、次のとおりであります。

① 重要な会議の開催状況

当事業年度は、取締役会を13回開催し経営上の重要事項の決定や取締役の職務執行の監督を実施しました。またグループ会社の職務執行の状況についても、定期的に取り締役に報告し、業務の適正性を監督しております。

② コンプライアンスに関する取組み

法令・定款および社会規範を順守した行動をとるための行動規範として「兼房グループ行動規範」を定め、兼房グループの取締役および社員に対して、行動規範の精神である法令順守をあらゆる企業活動の前提とすることを繰返し伝えております。また定期的にコンプライアンス研修を実施し、法令順守の重要性の周知徹底を図っております。

③ リスク管理に関する取組み

リスク管理委員会を4回開催し、当社およびグループ会社のリスク低減活動を実施しました。またリスク管理に関する事項を取締役会および監査等委員会へ四半期ごとに報告しております。

④ 内部監査に関する取組み

内部監査室が内部監査計画に基づき、当社およびグループ会社の内部監査を実施しております。また内部統制委員会を4回開催し監査内容の共有化を図っております。

~~~~~  
(注) 本事業報告中の記載金額および株式数は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。ただし、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益は、銭未満を四捨五入しております。

# 連結貸借対照表

(2026年3月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目               | 金 額        | 科 目               | 金 額        |
|-------------------|------------|-------------------|------------|
| (資 産 の 部)         |            | (負 債 の 部)         |            |
| 流 動 資 産           | 20,633,710 | 流 動 負 債           | 2,953,168  |
| 現 金 及 び 預 金       | 7,885,619  | 買 掛 金             | 970,153    |
| 受 取 手 形           | 56,814     | 電 子 記 録 債 務       | 170,212    |
| 電 子 記 録 債 権       | 649,368    | 1年内返済予定の長期借入金     | 213,215    |
| 売 掛 金             | 3,227,976  | リ ー ス 債 務         | 38,556     |
| 商 品 及 び 製 品       | 3,945,423  | 未 払 金             | 784,869    |
| 仕 掛 品             | 1,215,981  | 未 払 法 人 税 等       | 42,904     |
| 原 材 料 及 び 貯 蔵 品   | 3,078,700  | 賞 与 引 当 金         | 412,925    |
| そ の 他             | 590,401    | そ の 他             | 320,332    |
| 貸 倒 引 当 金         | △16,577    | 固 定 負 債           | 4,111,031  |
| 固 定 資 産           | 17,769,733 | 長 期 借 入 金         | 2,852,544  |
| 有 形 固 定 資 産       | 15,224,091 | リ ー ス 債 務         | 28,544     |
| 建 物 及 び 構 築 物     | 6,329,751  | 繰 延 税 金 負 債       | 464,024    |
| 機 械 装 置 及 び 運 搬 具 | 5,219,785  | 退 職 給 付 に 係 る 負 債 | 188,847    |
| 土 地               | 2,158,430  | 資 産 除 去 債 務       | 432,260    |
| 建 設 仮 勘 定         | 1,289,041  | そ の 他             | 144,810    |
| そ の 他             | 227,082    | 負 債 合 計           | 7,064,200  |
| 無 形 固 定 資 産       | 927,047    | (純 資 産 の 部)       |            |
| 投 資 そ の 他 の 資 産   | 1,618,594  | 株 主 資 本           | 27,489,468 |
| 投 資 有 価 証 券       | 705,104    | 資 本 金             | 2,142,500  |
| 繰 延 税 金 資 産       | 99,113     | 資 本 剰 余 金         | 2,167,890  |
| 退 職 給 付 に 係 る 資 産 | 579,848    | 利 益 剰 余 金         | 23,388,071 |
| そ の 他             | 237,627    | 自 己 株 式           | △208,993   |
| 貸 倒 引 当 金         | △3,099     | その他の包括利益累計額       | 3,849,775  |
| 資 産 合 計           | 38,403,443 | その他有価証券評価差額金      | 323,389    |
|                   |            | 為 替 換 算 調 整 勘 定   | 3,281,950  |
|                   |            | 退職給付に係る調整累計額      | 244,436    |
|                   |            | 純 資 産 合 計         | 31,339,243 |
|                   |            | 負 債 及 び 純 資 産 合 計 | 38,403,443 |

# 連結損益計算書

(2025年4月1日から  
2026年3月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目             |         | 金 額 |            |
|-----------------|---------|-----|------------|
| 売上高             |         |     | 20,947,572 |
| 売上原価            |         |     | 14,675,994 |
| 売上総利益           |         |     | 6,271,578  |
| 販売費及び一般管理費      |         |     | 5,180,756  |
| 営業利益            |         |     | 1,090,822  |
| 営業外収益           |         |     |            |
| 受取利息及び配当金       | 85,739  |     |            |
| 為替差益            | 200,559 |     |            |
| その他             | 34,949  |     | 321,249    |
| 営業外費用           |         |     |            |
| 支払利息            | 63,837  |     |            |
| デリバティブ評価損       | 3,252   |     |            |
| その他             | 563     |     | 67,653     |
| 経常利益            |         |     | 1,344,417  |
| 特別利益            |         |     |            |
| 固定資産売却益         | 79,291  |     |            |
| 事業譲渡益           | 65,000  |     | 144,291    |
| 特別損失            |         |     |            |
| 固定資産売却損         | 2,066   |     |            |
| 固定資産除却損         | 14,172  |     |            |
| 減損損失            | 6,829   |     | 23,068     |
| 税金等調整前当期純利益     |         |     | 1,465,641  |
| 法人税、住民税及び事業税    | 413,861 |     |            |
| 法人税等調整額         | 19,819  |     | 433,681    |
| 当期純利益           |         |     | 1,031,960  |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 |         |     | 1,031,960  |

# 連結株主資本等変動計算書

(2025年 4 月 1 日から  
2026年 3 月31日まで)

(単位：千円)

|                                | 株 主 資 本   |           |            |          |            |
|--------------------------------|-----------|-----------|------------|----------|------------|
|                                | 資 本 金     | 資本剰余金     | 利益剰余金      | 自 己 株 式  | 株主資本合計     |
| 当 連 結 会 計 年 度 期 首 残 高          | 2,142,500 | 2,167,890 | 22,703,611 | △208,939 | 26,805,062 |
| 当 連 結 会 計 年 度 変 動 額            |           |           |            |          |            |
| 剰 余 金 の 配 当                    |           |           | △347,500   |          | △347,500   |
| 親会社株主に帰属する当期純利益                |           |           | 1,031,960  |          | 1,031,960  |
| 自 己 株 式 の 取 得                  |           |           |            | △54      | △54        |
| 株主資本以外の項目の当連結<br>会計年度中の変動額（純額） |           |           |            |          | －          |
| 当 連 結 会 計 年 度 変 動 額 合 計        | －         | －         | 684,459    | △54      | 684,405    |
| 当 連 結 会 計 年 度 末 残 高            | 2,142,500 | 2,167,890 | 23,388,071 | △208,993 | 27,489,468 |

|                                | そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 |                    |                      |                       | 純資産合計      |
|--------------------------------|-----------------------|--------------------|----------------------|-----------------------|------------|
|                                | その他有価証券<br>評価差額金      | 為 替 換 算<br>調 整 勘 定 | 退職給付に係る<br>調 整 累 計 額 | その他の包括利益<br>累 計 額 合 計 |            |
| 当 連 結 会 計 年 度 期 首 残 高          | 298,121               | 3,465,163          | △12,203              | 3,751,082             | 30,556,144 |
| 当 連 結 会 計 年 度 変 動 額            |                       |                    |                      |                       |            |
| 剰 余 金 の 配 当                    |                       |                    |                      | －                     | △347,500   |
| 親会社株主に帰属する当期純利益                |                       |                    |                      | －                     | 1,031,960  |
| 自 己 株 式 の 取 得                  |                       |                    |                      | －                     | △54        |
| 株主資本以外の項目の当連結<br>会計年度中の変動額（純額） | 25,267                | △183,213           | 256,639              | 98,692                | 98,692     |
| 当 連 結 会 計 年 度 変 動 額 合 計        | 25,267                | △183,213           | 256,639              | 98,692                | 783,098    |
| 当 連 結 会 計 年 度 末 残 高            | 323,389               | 3,281,950          | 244,436              | 3,849,775             | 31,339,243 |

## 連結注記表

### 1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

#### (1) 連結の範囲に関する事項

連結子会社の状況

- |           |                                                                                                                                                                                                       |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・連結子会社の数  | 10社                                                                                                                                                                                                   |
| ・連結子会社の名称 | PT.カネフサインドネシア<br>カネフサUSA, INC.<br>カネフサヨーロッパB.V.<br>昆山兼房高科技刀具有限公司<br>カネフサインディアPvt.Ltd.<br>カネフサ ド ブラジルLTDA.<br>カネフサメキシコS.A. DE C.V.<br>カネフサベトナム マニユファクチャリングCO., LTD.<br>カネフサベトナムCO., LTD.<br>大口サービス株式会社 |

#### (2) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、PT.カネフサインドネシア、カネフサUSA, INC.、カネフサヨーロッパB.V.、昆山兼房高科技刀具有限公司、カネフサ ド ブラジルLTDA.、カネフサメキシコS.A. DE C.V.、カネフサベトナム マニユファクチャリングCO., LTD.、およびカネフサベトナムCO., LTD.の決算日は12月31日であります。連結計算書類の作成にあたっては、同決算日現在の計算書類を使用しております。ただし、1月1日から3月31日（連結決算日）までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

#### (3) 会計方針に関する事項

##### ① 重要な資産の評価基準および評価方法

- |                   |                                                 |
|-------------------|-------------------------------------------------|
| 1) その他有価証券        |                                                 |
| ・市場価格のない株式等以外のもの  | 時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）        |
| ・市場価格のない株式等       | 移動平均法による原価法                                     |
| 2) デリバティブ         | 時価法                                             |
| 3) 棚卸資産           |                                                 |
| 商品・製品・仕掛品・原材料・貯蔵品 | 総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定） |

##### ② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

- |                     |                                                                                             |
|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1) 有形固定資産（リース資産を除く） | 建物（建物附属設備を含む）並びに2016年4月1日以降に取得した構築物については定額法、それ以外は主として定率法によっております。<br>なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 |
|                     | 建物及び構築物                      3年～50年                                                         |
|                     | 機械装置及び運搬具                4年～10年                                                             |

- 2) 無形固定資産
- 3) リース資産

定額法

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。  
なお、リース資産は該当する固定資産の科目に含めて計上しております。

### ③ 重要な引当金の計上基準

#### 1) 貸倒引当金

当社は債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。また、在外連結子会社は、貸倒見積額を計上しております。

#### 2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与に充てるため、将来の支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

### ④ 収益および費用の計上基準

約束した財またはサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財またはサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。当社および子会社は、主として当社および子会社で製造した工業用刃物を顧客へ販売しております。

製品販売による収益は、各製品の引渡しの時点において、顧客が支配を獲得し履行義務を充足すると考えられるため、当該引渡しの一時点で収益を認識しております。ただし、出荷時から当該製品の支配が顧客に移転されるまでの期間が通常の期間である場合には、製品出荷時点で履行義務を充足すると考え、重要性等に関する代替的な取扱いを適用し、出荷時に収益を認識しております。

また、当社製品に関する取引の対価は、製品の引渡し後、概ね3ヶ月以内に受領しております。

## (4) その他連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

### ① 外貨建の資産および負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物が替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外連結子会社の資産、負債、収益および費用は、同社決算日の直物が替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

### ② 退職給付に係る負債の計上基準

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産を控除した額を計上しております。

数理計算上の差異は、主として各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日翌連結会計年度から費用処理しております。

未認識数理計算上の差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

また、当社の従業員の一部については、退職給付に係る負債および退職給付費用の計算に、内規に基づく連結会計年度末要支給額の全額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

## 2. 会計上の見積りに関する注記

### (棚卸資産の評価)

#### (1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

|                   |             |
|-------------------|-------------|
| 商品及び製品            | 3,945,423千円 |
| 仕掛品               | 1,215,981千円 |
| 原材料及び貯蔵品          | 3,078,700千円 |
| 売上原価（棚卸資産評価損：△は益） | 46,749千円    |

棚卸資産評価損は戻入との純額を記載しております。

#### (2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社グループでは棚卸資産の評価について、1.連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等(3)会計方針に関する事項に記載しているとおり、貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定しております。

収益性の低下に基づく簿価切り下げについては、連結会計年度末において、通常の販売目的で保有している棚卸資産は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定しており、直近の販売実績に基づき、正味売却価額が取得原価を下回っている場合には当該正味売却価額まで簿価を切り下げているほか、直近の販売実績や棚卸資産の保有量および保有期間から、顧客ニーズの変化などにより販売可能性が低下したと判断した棚卸資産については過剰在庫および滞留在庫として、あらかじめ定めている定期的に帳簿価額を切り下げの方法によって、評価損を計上しております。

棚卸資産の評価は、現在の状況および入手可能な情報に基づき、合理的と考えられる見積りおよび判断を行っておりますが、帳簿価額の切り下げに関する方針は、過去の販売実績に基づいて決定したものであり、今後、市場環境や顧客ニーズの変化等があった場合には、翌連結会計年度において、損益に影響を与える可能性があります。

### 3. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 34,357,428千円

(2) 圧縮記帳

有形固定資産に係る国庫補助金の受入による圧縮記帳額は、次のとおりであります。

機械装置及び運搬具 30,112千円

### 4. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当連結会計年度の末日における発行済株式の種類および総数

| 株 式 の 種 類 | 当連結会計年度期首株式数（株） | 当連結会計年度末株式数（株） |
|-----------|-----------------|----------------|
| 普 通 株 式   | 14,310,000      | 14,310,000     |

(2) 剰余金の配当に関する事項

① 配当金支払額

| 決 議                       | 株式の種類   | 配 当 金 の<br>総額（千円） | 1 株 当 た り<br>配当額（円） | 基 準 日      | 効 力 発 生 日  |
|---------------------------|---------|-------------------|---------------------|------------|------------|
| 2025年6月26日<br>定 時 株 主 総 会 | 普 通 株 式 | 243,250           | 17.50               | 2025年3月31日 | 2025年6月27日 |
| 2025年11月10日<br>取 締 役 会    | 普 通 株 式 | 104,249           | 7.50                | 2025年9月30日 | 2025年12月5日 |

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

2026年6月25日開催の定時株主総会の議案として、下記のとおり予定しております。

| 決 議                       | 株式の種類   | 配 当 金 の<br>総額（千円） | 1 株 当 た り<br>配当額（円） | 基 準 日      | 効 力 発 生 日  |
|---------------------------|---------|-------------------|---------------------|------------|------------|
| 2026年6月25日<br>定 時 株 主 総 会 | 普 通 株 式 | 257,149           | 18.50               | 2026年3月31日 | 2026年6月26日 |

(注) 配当の原資については、利益剰余金とすることを予定しております。

## 5. 金融商品に関する注記

### (1) 金融商品の状況に関する事項

#### ① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については主に流動性の高い金融資産で運用しております。デリバティブは、後述する為替の変動リスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

#### ② 金融商品の内容および当該金融商品に係るリスク

営業債権である受取手形、売掛金、電子記録債権は、顧客の信用リスクにさらされております。また、海外で事業を行うにあたり生じる外貨建営業債権債務は、為替の変動リスクにさらされており、為替予約取引を利用してヘッジする場合があります。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクにさらされております。

#### ③ 金融商品に係るリスク管理体制

当社は、与信管理規程に従い、営業債権について主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日および残高を管理するとともに、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の与信管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

デリバティブ取引の実行・管理については、取引権限および取引限度額等を定めたデリバティブ取引管理規程に従い行っており、取引相手先は高格付を有する金融機関に限定しているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。また、投資有価証券については、定期的に時価や発行体の財務状況等の把握を行っております。

### (2) 金融商品の時価等に関する事項

2026年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等（連結貸借対照表計上額20,429千円）は、「その他有価証券」には含めておりません。また、現金は注記を省略しており、預金、受取手形、売掛金、電子記録債権、買掛金、電子記録債務、未払金、未払法人税等についても短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

(単位：千円)

|                | 連結貸借対照表計上額（＊1） | 時価（＊1）      | 差額       |
|----------------|----------------|-------------|----------|
| ① 投資有価証券       |                |             |          |
| その他有価証券        | 684,674        | 684,674     | －        |
| ② 長期借入金（＊2）    | (3,065,760)    | (3,013,022) | (52,737) |
| ③ デリバティブ取引（＊3） | (3,252)        | (3,252)     | －        |

(＊1) 負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

(＊2) 1年内返済予定の長期借入金は、長期借入金に含めて表示しております。なお、変動金利による借入については、短期間で市場金利を反映するため、時価は帳簿価額と近似するものと考えられることから、当該帳簿価額によっております。

(＊3) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で示しております。

### (3) 金融商品の時価の適切な区分ごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を時価の算定に用いたインプットの観察可能性および重要性に応じて以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産または負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

#### ① 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

(単位：千円)

| 区分       | 時価      |         |      |         |
|----------|---------|---------|------|---------|
|          | レベル1    | レベル2    | レベル3 | 合計      |
| 投資有価証券   |         |         |      |         |
| その他有価証券  |         |         |      |         |
| 株式       | 684,674 | —       | —    | 684,674 |
| デリバティブ取引 | —       | (3,252) | —    | (3,252) |

#### ② 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

(単位：千円)

| 区分    | 時価   |           |      |           |
|-------|------|-----------|------|-----------|
|       | レベル1 | レベル2      | レベル3 | 合計        |
| 長期借入金 | —    | 3,013,022 | —    | 3,013,022 |

#### (注1) 時価の算定に用いた評価技法およびインプットの説明

##### 投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

##### デリバティブ取引

取引金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

##### 長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間および信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。なお、変動金利によるものについては、短期間で市場金利を反映し、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっており、レベル2の時価に分類しております。

(注2) 借入金の連結決算日後の返済予定額

(単位：千円)

|       | 1年以内    | 1年超5年以内 | 5年超10年以内  | 10年超 |
|-------|---------|---------|-----------|------|
| 長期借入金 | 213,215 | 852,544 | 2,000,000 | －    |

## 6. 収益認識に関する注記

### (1) 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

主要な財またはサービス別に分解した収益の情報は以下のとおりであります。

(単位：千円)

|                       | 報告セグメント    |            |           |           |           |         |           |            |
|-----------------------|------------|------------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|------------|
|                       | 日本         | インド<br>ネシア | 米国        | 欧州        | 中国        | ブラジル    | ベトナム      | 計          |
| 売上高                   |            |            |           |           |           |         |           |            |
| 平刃類                   | 4,189,872  | 2,790,645  | 336,212   | 764,300   | 767,486   | 233,073 | 134,951   | 9,216,542  |
| 精密刃具類                 | 3,557,889  | 149,979    | 194,663   | 71,905    | 23,492    | 894     | 17,003    | 4,015,827  |
| 丸鋸類                   | 7,345,755  | 1,139,564  | 1,787,291 | 1,449,696 | 1,031,445 | 536,783 | 1,353,569 | 14,644,106 |
| 商品他                   | 820,178    | 97,779     | 144,172   | 3,739     | 27,221    | 14,947  | 558       | 1,108,597  |
| 顧客との契約から<br>生じる収益     | 15,913,696 | 4,177,968  | 2,462,341 | 2,289,640 | 1,849,646 | 785,698 | 1,506,082 | 28,985,074 |
| 外部顧客への<br>売上高         | 10,777,420 | 2,378,769  | 2,462,312 | 2,288,874 | 933,978   | 785,698 | 153,940   | 19,780,994 |
| セグメント間の内部<br>売上高又は振替高 | 5,136,275  | 1,799,199  | 28        | 766       | 915,667   | —       | 1,352,142 | 9,204,079  |
| 計                     | 15,913,696 | 4,177,968  | 2,462,341 | 2,289,640 | 1,849,646 | 785,698 | 1,506,082 | 28,985,074 |

|                       | その他<br>(注) | 合計         | 調整額        | 連結計算<br>書類計上額 |
|-----------------------|------------|------------|------------|---------------|
| 売上高                   |            |            |            |               |
| 平刃類                   | 89,314     | 9,305,856  | △2,259,682 | 7,046,173     |
| 精密刃具類                 | 65,699     | 4,081,527  | △312,806   | 3,768,720     |
| 丸鋸類                   | 989,130    | 15,633,237 | △5,894,531 | 9,738,706     |
| 商品他                   | 22,613     | 1,131,210  | △737,238   | 393,972       |
| 顧客との契約から<br>生じる収益     | 1,166,757  | 30,151,832 | △9,204,259 | 20,947,572    |
| 外部顧客への<br>売上高         | 1,166,577  | 20,947,572 | —          | 20,947,572    |
| セグメント間の内部<br>売上高又は振替高 | 180        | 9,204,259  | △9,204,259 | —             |
| 計                     | 1,166,757  | 30,151,832 | △9,204,259 | 20,947,572    |

(注) 「その他」の区分は、以下のとおりであります。

- ・インド、メキシコ
- ・日本…損害保険代理店業務など

## (2) 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は「1.連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等(3)会計方針に関する事項④収益および費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

## (3) 当連結会計年度および翌連結会計年度以降の収益の金額を理解するための情報

### ① 契約負債

契約負債は主に、製品の引渡前に顧客から受け取った対価であり、履行義務の充足による収益の計上に伴い取り崩されます。契約負債は連結貸借対照表上、流動負債のその他に含まれております。

契約負債の残高は以下のとおりであります。

| 契約負債 | 当連結会計年度  |
|------|----------|
| 期首残高 | 44,470千円 |
| 期末残高 | 55,709千円 |

当連結会計年度に認識された収益のうち、期首現在の契約負債の残高に含まれていた金額は44,470千円であります。

### ② 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループにおいては、当初に予想される契約期間が1年を超える重要な取引がないため、実務上の便法を適用し、残存履行義務に関する情報の記載を省略しております。

## 7. 1株当たり情報に関する注記

- |                |           |
|----------------|-----------|
| (1) 1株当たり純資産額  | 2,254円63銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 74円24銭    |

※ 記載金額については、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。ただし、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益は、銭未満を四捨五入しております。

# 貸借対照表

(2026年3月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目               | 金 額        | 科 目                     | 金 額        |
|-------------------|------------|-------------------------|------------|
| (資 産 の 部)         |            | (負 債 の 部)               |            |
| 流 動 資 産           | 13,586,939 | 流 動 負 債                 | 2,762,269  |
| 現 金 及 び 預 金       | 5,606,934  | 買 掛 金                   | 1,275,280  |
| 受 取 手 形           | 56,814     | 電 子 記 録 債 務             | 170,212    |
| 電 子 記 録 債 権       | 554,258    | 1年内返済予定の長期借入金           | 213,215    |
| 売 掛 金             | 3,446,426  | 未 払 金                   | 539,738    |
| 商 品 及 び 製 品       | 1,483,187  | 未 払 法 人 税 等             | 2,594      |
| 仕 掛 品             | 560,638    | 賞 与 引 当 金               | 352,901    |
| 原 材 料 及 び 貯 蔵 品   | 1,316,204  | そ の 他                   | 208,326    |
| そ の 他             | 564,499    | 固 定 負 債                 | 3,152,884  |
| 貸 倒 引 当 金         | △2,025     | 長 期 借 入 金               | 2,852,544  |
| 固 定 資 産           | 17,392,128 | 退 職 給 付 引 当 金           | 2,760      |
| 有 形 固 定 資 産       | 8,280,164  | 役 員 退 職 慰 労 未 払 金       | 143,498    |
| 建 物 及 び 構 築 物     | 3,480,294  | 繰 延 税 金 負 債             | 123,982    |
| 機 械 装 置 及 び 運 搬 具 | 1,489,869  | そ の 他                   | 30,099     |
| 土 地               | 2,032,457  | 負 債 合 計                 | 5,915,154  |
| 建 設 仮 勘 定         | 1,159,464  | (純 資 産 の 部)             |            |
| そ の 他             | 118,078    | 株 主 資 本                 | 24,740,524 |
| 無 形 固 定 資 産       | 50,547     | 資 本 金                   | 2,142,500  |
| 投 資 そ の 他 の 資 産   | 9,061,415  | 資 本 剰 余 金               | 2,167,890  |
| 投 資 有 価 証 券       | 705,104    | 資 本 準 備 金               | 2,167,890  |
| 関 係 会 社 株 式       | 1,308,723  | 利 益 剰 余 金               | 20,639,127 |
| 関 係 会 社 出 資 金     | 3,918,814  | 利 益 準 備 金               | 535,625    |
| 長 期 貸 付 金         | 2,722,916  | そ の 他 利 益 剰 余 金         | 20,103,502 |
| 前 払 年 金 費 用       | 233,838    | 土 地 圧 縮 積 立 金           | 155,595    |
| そ の 他             | 175,390    | 別 途 積 立 金               | 10,300,000 |
| 貸 倒 引 当 金         | △3,372     | 繰 越 利 益 剰 余 金           | 9,647,906  |
| 資 産 合 計           | 30,979,067 | 自 己 株 式                 | △208,993   |
|                   |            | 評 価 ・ 換 算 差 額 等         | 323,389    |
|                   |            | そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金 | 323,389    |
|                   |            | 純 資 産 合 計               | 25,063,913 |
|                   |            | 負 債 及 び 純 資 産 合 計       | 30,979,067 |

# 損 益 計 算 書

(2025年 4 月 1 日から)  
(2026年 3 月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目                     | 金 額        |
|-------------------------|------------|
| 売 上 高                   | 15,913,696 |
| 売 上 原 価                 | 12,139,945 |
| 売 上 総 利 益               | 3,773,750  |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費     | 3,463,170  |
| 営 業 利 益                 | 310,580    |
| 営 業 外 収 益               |            |
| 受 取 利 息 及 び 配 当 金       | 352,767    |
| 為 替 差 益                 | 258,849    |
| 受 取 口 イ ヤ リ テ イ ー       | 47,623     |
| そ の 他                   | 13,914     |
| 営 業 外 費 用               |            |
| 支 払 利 息                 | 63,627     |
| デ リ バ テ イ ブ 評 価 損       | 3,252      |
| そ の 他                   | 68         |
| 経 常 利 益                 | 66,948     |
| 特 別 利 益                 |            |
| 特 定 資 産 売 却 益           | 565        |
| 特 別 損 失                 |            |
| 固 定 資 産 売 却 損           | 1,673      |
| 固 定 資 産 除 却 損           | 946        |
| 関 係 会 社 出 資 金 評 価 損     | 17,655     |
| 税 引 前 当 期 純 利 益         | 20,275     |
| 法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税 | 897,075    |
| 法 人 税 等 調 整 額           | 219,156    |
| 当 期 純 利 益               | △15,740    |
|                         | 203,416    |
|                         | 693,659    |

# 株主資本等変動計算書

(2025年 4 月 1 日から  
2026年 3 月31日まで)

(単位：千円)

|                             | 株 主 資 本   |           |              |           |                 |            |               |              |          | 株主資本<br>合 計 |
|-----------------------------|-----------|-----------|--------------|-----------|-----------------|------------|---------------|--------------|----------|-------------|
|                             | 資 本 金     | 資 本 剰 余 金 |              | 利 益 剰 余 金 |                 |            |               |              | 自己株式     |             |
|                             |           | 資本準備金     | 資本剰余金<br>合 計 | 利益準備金     | そ の 他 利 益 剰 余 金 |            |               | 利益剰余金<br>合 計 |          |             |
|                             |           |           |              |           | 土地圧縮<br>積 立 金   | 別途積立金      | 繰越利益<br>剰 余 金 |              |          |             |
| 当 期 首 残 高                   | 2,142,500 | 2,167,890 | 2,167,890    | 535,625   | 155,595         | 10,300,000 | 9,301,748     | 20,292,968   | △208,939 | 24,394,419  |
| 当 期 変 動 額                   |           |           |              |           |                 |            |               |              |          |             |
| 剰余金の配当                      |           |           | －            |           |                 |            | △347,500      | △347,500     |          | △347,500    |
| 当 期 純 利 益                   |           |           | －            |           |                 |            | 693,659       | 693,659      |          | 693,659     |
| 自己株式の取得                     |           |           | －            |           |                 |            |               | －            | △54      | △54         |
| 株主資本以外の項目の当<br>業年度中の変動額（純額） |           |           | －            |           |                 |            |               | －            |          | －           |
| 当 期 変 動 額 合 計               | －         | －         | －            | －         | －               | －          | 346,158       | 346,158      | △54      | 346,104     |
| 当 期 末 残 高                   | 2,142,500 | 2,167,890 | 2,167,890    | 535,625   | 155,595         | 10,300,000 | 9,647,906     | 20,639,127   | △208,993 | 24,740,524  |

|                             | 評 価 ・ 換 算 差 額 等      |                        | 純資産合計      |
|-----------------------------|----------------------|------------------------|------------|
|                             | その他有価証券<br>評 価 差 額 金 | 評 価 ・ 換 算<br>差 額 等 合 計 |            |
| 当 期 首 残 高                   | 298,121              | 298,121                | 24,692,541 |
| 当 期 変 動 額                   |                      |                        |            |
| 剰余金の配当                      |                      | －                      | △347,500   |
| 当 期 純 利 益                   |                      | －                      | 693,659    |
| 自己株式の取得                     |                      | －                      | △54        |
| 株主資本以外の項目の当<br>業年度中の変動額（純額） | 25,267               | 25,267                 | 25,267     |
| 当 期 変 動 額 合 計               | 25,267               | 25,267                 | 371,371    |
| 当 期 末 残 高                   | 323,389              | 323,389                | 25,063,913 |

## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### (1) 資産の評価基準および評価方法

- |                   |                                                 |
|-------------------|-------------------------------------------------|
| ① 子会社株式           | 移動平均法による原価法                                     |
| ② その他有価証券         |                                                 |
| ・ 市場価格のない株式等以外のもの | 時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）        |
| ・ 市場価格のない株式等      | 移動平均法による原価法                                     |
| ③ デリバティブ          | 時価法                                             |
| ④ 棚卸資産            |                                                 |
| 商品・製品・仕掛品・原材料・貯蔵品 | 総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定） |

#### (2) 固定資産の減価償却の方法

- |                    |                                                                                                                                   |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 有形固定資産（リース資産を除く） | 建物（建物附属設備を含む）並びに2016年4月1日以降に取得した構築物については定額法、それ以外は主として定率法によっております。<br>なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。<br>建物（建物附属設備を含む） 3年～50年<br>機械及び装置 10年 |
| ② 無形固定資産           | ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年間）に基づく定額法によっております。                                                                              |
| ③ リース資産            | 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産<br>リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。<br>なお、リース資産は該当する固定資産の科目に含めて計上しております。                            |

#### (3) 引当金の計上基準

- |                   |                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 貸倒引当金           | 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。                                                                                                                                                                                          |
| ② 賞与引当金           | 従業員に対して支給する賞与に充てるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。                                                                                                                                                                                                                           |
| ③ 退職給付引当金（前払年金費用） | 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しております。なお、当事業年度末では、年金制度に係る年金資産の合計額が退職給付債務から未認識数理計算上の差異を控除した金額を超過しているため、当該超過額を前払年金費用（投資その他の資産）に計上しております。<br>また、従業員の一部については、内規に基づく期末要支給額の金額を計上しております。<br>数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生 |

翌事業年度から費用処理することとしております。

なお、退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結計算書類における会計処理の方法と異なっております。

#### (4) 収益および費用の計上基準

約束した財またはサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財またはサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。なお、主要な事業における主な履行義務の内容および収益を認識する通常の時点については、「連結注記表 1.連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等(3)会計方針に関する事項④収益および費用の計上基準」に記載のとおりであります。

#### (5) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

外貨建の資産および負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

## 2. 会計上の見積りに関する注記

### (棚卸資産の評価)

#### (1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

|                   |             |
|-------------------|-------------|
| 商品及び製品            | 1,483,187千円 |
| 仕掛品               | 560,638千円   |
| 原材料及び貯蔵品          | 1,316,204千円 |
| 売上原価（棚卸資産評価損：△は益） | 20,415千円    |

棚卸資産評価損は戻入との純額を記載しております。

#### (2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

その他の情報については、「連結注記表 2. 会計上の見積りに関する注記（棚卸資産の評価）(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報」に同一の内容を記載しているため、記載を省略しております。

## 3. 貸借対照表に関する注記

#### (1) 有形固定資産の減価償却累計額

22,974,939千円

#### (2) 圧縮記帳

有形固定資産に係る国庫補助金の受入による圧縮記帳額は、次のとおりであります。

|           |          |
|-----------|----------|
| 機械装置及び運搬具 | 30,112千円 |
|-----------|----------|

#### (3) 関係会社に対する金銭債権および金銭債務

|          |             |
|----------|-------------|
| ① 短期金銭債権 | 2,259,647千円 |
| ② 長期金銭債権 | 2,722,916千円 |
| ③ 短期金銭債務 | 538,192千円   |

#### (4) 取締役との間の取引による取締役に対する金銭債務

143,498千円

4. 損益計算書に関する注記

|           |            |             |
|-----------|------------|-------------|
| 関係会社との取引高 |            |             |
| ①         | 売上高        | 5,136,275千円 |
| ②         | 仕入高        | 2,476,490千円 |
| ③         | 販売費及び一般管理費 | 180千円       |
| ④         | 営業取引以外の取引高 | 446,888千円   |

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

| 自己株式に関する事項 |  |                           |
|------------|--|---------------------------|
| 株 式 の 種 類  |  | 当 事 業 年 度 期 首 株 式 数 （ 株 ） |
|            |  | 当 事 業 年 度 末 株 式 数 （ 株 ）   |
| 普 通 株 式    |  | 409,962                   |
|            |  | 410,042                   |

## 6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

|           |          |
|-----------|----------|
| 未払事業税     | 9,462千円  |
| 賞与引当金     | 109,399  |
| 退職給付引当金   | 855      |
| 役員退職慰労未払金 | 44,484   |
| 貸倒引当金     | 1,673    |
| 棚卸資産評価減   | 23,009   |
| 減損損失      | 74,681   |
| 関係会社株式評価損 | 50,137   |
| その他       | 64,938   |
| 繰延税金資産小計  | 378,642  |
| 評価性引当額    | △196,855 |
| 繰延税金資産合計  | 181,787  |

(繰延税金負債)

|              |          |
|--------------|----------|
| 前払年金費用       | △72,490  |
| 土地圧縮積立金      | △69,905  |
| その他有価証券評価差額金 | △144,261 |
| 資産除去債務       | △1,466   |
| その他          | △17,646  |
| 繰延税金負債合計     | △305,770 |

|           |          |
|-----------|----------|
| 繰延税金負債の純額 | △123,982 |
|-----------|----------|

## 7. 関連当事者との取引に関する注記

子会社

| 属 性 | 会 社 等 の 名 称                          | 議 決 権 等 の<br>所有 (被所有)<br>割 合 ( % ) | 関 連 当 事 者 と の 関 係                        | 取 引 の 内 容        | 取 引 金 額<br>(千円) | 科 目       | 期 末 残 高<br>(千円) |
|-----|--------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------------|------------------|-----------------|-----------|-----------------|
| 子会社 | カネフサベトナム<br>マニユファクチャ<br>リングCO., LTD. | ( 所 有 )<br>直接 100.0                | 原材料および製商品の販売、<br>製品の仕入<br>役員の兼任<br>資金の貸付 | 利息の受取<br>(注 2)   | 154,924         | 短 期 貸 付 金 | 363,567         |
|     |                                      |                                    |                                          | 資金の貸付            | 744,999         | 長 期 貸 付 金 | 2,722,916       |
| 子会社 | カネフサ<br>USA, INC.                    | ( 所 有 )<br>直接 100.0                | 製商品の販売<br>役員の兼任                          | 当社製品の販売<br>(注 1) | 1,739,154       | 売 掛 金     | 467,209         |
| 子会社 | カネフサ<br>ヨーロッパB.V.                    | ( 所 有 )<br>直接 100.0                | 製商品の販売<br>役員の兼任                          | 当社製品の販売<br>(注 1) | 1,207,681       | 売 掛 金     | 409,898         |

取引条件および取引条件の決定方針等

(注) 1. 上記製商品の販売については、市場価格等を参考に決定しております。

2. 資金の貸付金利については、市場金利を勘案して決定しております。また、担保は受け入れておりません。

## 8. 収益認識に関する注記

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「連結注記表 1.連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等(3)会計方針に関する事項④収益および費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、記載を省略しております。

## 9. 1 株当たり情報に関する注記

(1) 1 株当たり純資産額

1,803円16銭

(2) 1 株当たり当期純利益

49円90銭

## 10. 退職給付に関する注記

### (1) 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型の確定給付制度を採用しており、確定給付企業年金制度として、ポイント制に基づいた一時金または年金を支給しております。また、2024年4月より選択型確定拠出年金制度（個々の従業員の意思による確定拠出年金への拠出もしくはライフプラン手当として給与加算のいずれかを選択）を採用しております。

なお、当社が有する退職一時金制度の一部は、簡便法により退職給付引当金および退職給付費用を計算しております。

### (2) 確定給付制度

#### ① 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

|              |             |
|--------------|-------------|
| 退職給付債務の期首残高  | 3,531,532千円 |
| 勤務費用         | 218,758     |
| 利息費用         | 24,720      |
| 数理計算上の差異の発生額 | △391,833    |
| 退職給付の支払額     | △231,633    |
| 退職給付債務の期末残高  | 3,151,544   |

#### ② 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

|              |             |
|--------------|-------------|
| 年金資産の期首残高    | 3,702,465千円 |
| 期待運用収益       | 51,834      |
| 数理計算上の差異の発生額 | △25,697     |
| 事業主からの拠出額    | 234,424     |
| 退職給付の支払額     | △231,633    |
| 年金資産の期末残高    | 3,731,392   |

#### ③ 簡便法を適用した制度の退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

|              |         |
|--------------|---------|
| 退職給付引当金の期首残高 | 2,160千円 |
| 退職給付費用       | 996     |
| 退職給付の支払額     | △396    |
| 退職給付引当金の期末残高 | 2,760   |

④ 退職給付債務および年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金および前払年金費用の調整表

|                     |             |
|---------------------|-------------|
| 積立型制度の退職給付債務        | 3,151,544千円 |
| 年金資産                | △3,731,392  |
| 未積立退職給付債務           | △579,848    |
| 非積立型制度の退職給付債務       | 2,760       |
| 未認識数理計算上の差異         | 346,009     |
| 貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | △231,078    |
| 前払年金費用              | △233,838    |
| 退職給付引当金             | 2,760       |
| 貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | △231,078    |

⑤ 退職給付費用およびその内訳項目の金額

|                 |           |
|-----------------|-----------|
| 勤務費用            | 218,758千円 |
| 利息費用            | 24,720    |
| 期待運用収益          | △51,834   |
| 数理計算上の差異の費用処理額  | 9,306     |
| 簡便法で計算した退職給付費用  | 996       |
| 確定給付制度に係る退職給付費用 | 201,946   |

⑥ 年金資産に関する事項

1) 年金資産の内訳

保険会社の一般勘定のみで運用しております。

2) 長期期待運用収益率の設定方法

一般勘定の予定利率をベースとし、運用結果の配当状況を考慮し設定しております。

⑦ 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率 2.1%

長期期待運用収益率 1.2%

(注) 当事業年度の期首時点の計算において適用した割引率は主として0.7%でありましたが、期末時点において割引率の変更により退職給付債務の額に重要な影響を及ぼすと判断し、割引率を2.1%に変更しております。

(3) 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、50,893千円であります。

※ 記載金額については、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。ただし、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益は、銭未満を四捨五入しております。

# 連結計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2026年5月19日

兼 房 株 式 会 社  
取 締 役 会 御 中

有限責任監査法人 トーマツ  
名古屋事務所

|                         |               |
|-------------------------|---------------|
| 指定有限責任社員<br>業 務 執 行 社 員 | 公認会計士 北 岡 宏 仁 |
| 指定有限責任社員<br>業 務 執 行 社 員 | 公認会計士 川 合 宏 海 |

### 監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、兼房株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、兼房株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

### 連結計算書類に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、連結計算書類の監査を計画し実施する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

# 計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2026年5月19日

兼 房 株 式 会 社  
取 締 役 会 御 中

有限責任監査法人 トーマツ  
名古屋事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 北 岡 宏 仁

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 川 合 宏 海

### 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、兼房株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの第78期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対し意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

### 計算書類等に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

# 監査等委員会の監査報告

## 監査報告書

当監査等委員会は、2025年4月1日から2026年3月31日までの第78期事業年度における取締役の職務の執行を監査しました。その方法および結果について以下のとおり報告します。

### 1. 監査の方法およびその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号ロおよびハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容ならびに当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について取締役および使用人等からその構築および運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、下記の方法で監査を実施しました。

- ① 監査等委員会が定めた監査の方針、職務の分担等に従い、会社の内部監査室と連携の上、重要な会議に出席し、取締役および使用人等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社および主要な事業所において業務および財産の状況を調査しました。また、子会社については、子会社の取締役および監査役等と意思疎通および情報の交換を図り、必要に応じて子会社に対し事業の報告を求め、その業務および財産の状況を調査しました。
- ② 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視および検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告およびその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書）およびその附属明細書ならびに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書）について検討しました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告およびその附属明細書は、法令および定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会の決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容および取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類およびその附属明細書の監査結果

会計監査人 有限責任監査法人トーマツの監査の方法および結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人 有限責任監査法人トーマツの監査の方法および結果は相当であると認めます。

2026年5月22日

兼房株式会社 監査等委員会

常勤監査等委員 山内敏男 ㊞

監査等委員 山崎裕司 ㊞

監査等委員 岡部真記 ㊞

(注) 監査等委員 山崎裕司および岡部真記は、会社法第2条第15号および第331条第6項に規定する社外取締役であります。

以 上

# サステナビリティへの取り組み（優先的に取り組む課題）



## 目指すべき成果

- ・「六方よし」の刃物・切削の提供（買い手・売り手・作り手・地球環境・社会・未来）
- ・新分野への取り組みの促進
- ・最適提案までの期間短縮

## 進捗状況

- ・ヘッド交換式小径多刃ダイヤモンドフェイスミル（Nova E'z Disc-mini）の拡販  
超高能率加工により、消費電力削減やカーボンニュートラル生産に貢献

- ・サプライチェーン全体での省資源化

- ・刃先カバーの小型化により、プラスチックの使用量を削減
- ・ロー付方法の見直しにより、ロー材使用量の削減

- ・サプライチェーン全体におけるカーボンニュートラルへの貢献
- ・エコ資材使用率の最大化

- ・新製品開発において、「CO<sub>2</sub>排出量」を評価基準とし、新製品価値の見える化を実現
- ・GHGフリーエネルギーの本社使用比率を40%まで引き上げ
- ・工場内事務所の照明を環境配慮型設備（LED）へ継続転換

- ・限りある人財で最大利益を生む
- ・多様な働き方への柔軟な対応

- ・AIを活用した自動検査による省人化に向けたデータ収集実施
- ・若手社員に向けたキャリアコンサルティングの実施
- ・子育て世代の多様な働き方の拡充

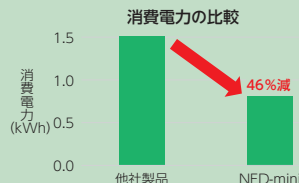
- ・パートナーとの連携により、当社のSDGsの取り組みを促進する。

- ・一部欧州企業に対してカーボンフットプリントの数値開示
- ・新製品開発のため、ユーザー訪問や大学の研究機関訪問の実施

## ・ヘッド交換式小径多刃ダイヤモンドミル（Nova E'z Disc-mini）

用途：アルミ材のフライス加工

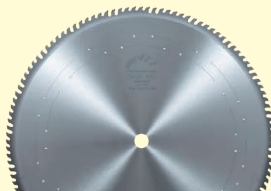
特徴：独自のロー付技術を用い、ダイヤモンドチップを超狭ピッチに配列した多刃仕様により、超高能率加工を実現し、消費電力削減やカーボンニュートラル生産に貢献します。丸鋸形状のディスクを取り外すことで全刃を一度に交換ができ、加えて刃先の調整時間が一切必要ないため、段取時間を大幅に短縮することが可能です。



## ・MA-ステイブルソー

用途：アルミサッシ、厚肉アルミビレットの切断

特徴：従来のステイブルソーを改良しました。独自技術により刃厚をさらに薄くし、厚肉のアルミビレット、プロファイル材でも安定した切断が可能。台金内部のスリット改良と歯室形状により、薄鋸化による大幅な歩留まり向上、切断面品質の向上を実現しました。

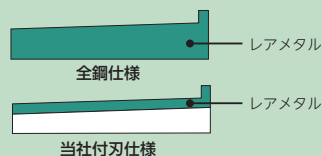


切断面の品質向上

## ・電気自動車（EV）電池部材用切断刃

用途：EV電池部材のシート（アルミニウム箔、銅箔、樹脂フィルム等）の切断

特徴：当社独自の技術を採用することで切断に必要な範囲にのみレアメタルを使用しており、希少資源使用量の大幅削減を実現しました。



## トピックス

### 日本木工機械展 出展(2025年10月)

ポートメッセなごやで開催された国内最大の木材加工産業総合展示会、日本木工機械展に出展しました。今回の展示会では、「Sharpen the future, Share the value ～未来を研ぎ澄まし、喜びの輪を広げる～」をブーステーマとして掲げ、環境配慮型製品を中心に展示しました。

出展した新製品「ポリゴノビットWB」は、高い技術力と業界への貢献性が高く評価され、技術優秀賞を受賞しました。



ブースの様子



#### 技術優秀賞受賞製品 ポリゴノビットWB

用途

合板や木質ボードの溝・くり抜き加工

特徴

刃先の素材をダイヤモンドにし、これまで困難であった小径化に成功。  
長寿命と、歩留まりの向上を同時に実現しました。

### メカトロテックジャパン2025 出展(2025年10月)

国内最大級の工作機械見本市メカトロテックジャパン（於ポートメッセなごや）が開催され、当社も出展しました。産業用ロボット・工作機械用制御装置メーカーのファナック（株）様とのコラボレーションが実現し、ファナック製新型ロボドリルに当社の製品の取り付け加工実演を行いました。



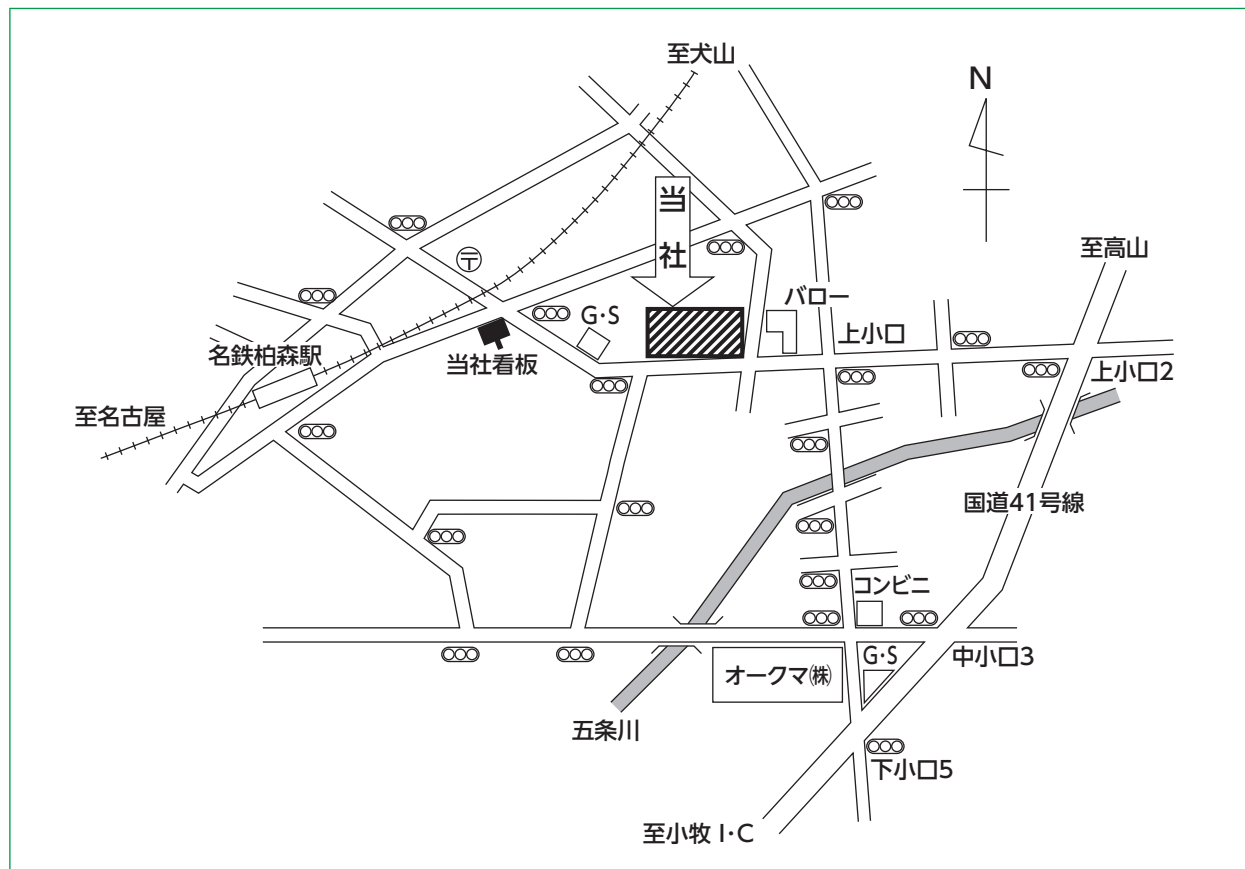
ブースの様子



ファナック(株)様とのコラボレーション

## 株主総会会場ご案内図

会 場 愛知県丹羽郡大口町中小口一丁目1番地  
兼房株式会社本店会議室  
電話 (0587) 95-2821 (代表)



## 交通のご案内

当日は、最寄り駅から次のとおり当社バスを運行いたします。

名鉄犬山線柏森駅南口から

午前9時20分 発

午前9時35分 発

東名高速道路小牧インター、名古屋高速道路小牧北出口から車で約15分  
お車の方は当社本店駐車場をご利用ください。

